

2019
EPIC FLASH Series

Driver

EPIC FLASH STAR



“2本の柱”とAIで
驚異のボール初速。
ヘッドは最軽量に!

ジェイルブレイクテクノロジーと AI
がデザインしたフラッシュフェース
が融合し、驚愕のボール初速を
実現。シリーズ最軽量のヘッドは
ヘッドスピードも上げてくれる。

- SPEC
- ◎ヘッド体積 / 460 cml
- ◎クラブ長さ / 45.75 インチ
- ◎ロフト / 9.5、10.5 度
- ◎シャフト / スピーダー
エポリューション for Callaway、ツアー AD VR-5、
スピーダー エポリューション V 569
- ◎価格 / 7万 7000 円+税~

EPIC FLASH Sub Zero



サブゼロで初の
ペリメーター
ウェイト搭載

フラッシュフェース、ジェイルブレ
イクテクノロジーはもちろん、サブ
ゼロ初のペリメーターウェイト
テクノロジーを搭載することで左
右の弾道調整が可能になった。

- SPEC
- ◎ヘッド体積 / 460 cml
- ◎クラブ長さ / 45.25 インチ
- ◎ロフト / 9、10.5 度
- ◎シャフト / ツアー AD SZ、
ツアー AD VR-6、スピーダー エポリューション V 661
- ◎価格 / 7万 7000 円+税~

FW

EPIC FLASH STAR



AI生まれの
フェースを踏襲し、
フェースカップと融合。

AIデザインのフラッシュフェース
を踏襲したFWシリーズ。フェース
カップ構造と融合することで、
ボール初速アップとミスヒットに
強いヘッドが完成。

- SPEC
- ◎ロフト / 15度(3W)、18度(5W)、
21度(7W)
- ◎シャフト / スピーダー エポリューション
for Callaway、スピーダー エポ
リューション V FW50
- ◎価格 / 4万 8000 円+税~

EPIC FLASH Sub Zero



強弾道でありながら、
歴代モデルを
超えるやさしさ

低重心&強弾道で中・上級者好
みのシリーズだが、歴代モデル
を超えるやさしさを実現。AI生まれ
のフラッシュフェースとの融合で
ボール初速アップを叶えてくれる。

- SPEC
- ◎ロフト / 13.5度(3+W)、15度
(3W)、18度(5W)
- ◎シャフト / ツアー AD SZ、
◎スピーダー エポリューション
V FW60
- ◎価格 / 4万 8000 円+税~

AI Design Face 34年後のドライバーを体感できる?

AIデザインフェース



約1万5000回の
シミュレーションから
生まれたフラッシュフェース。

長年、開発を指揮するアラ
ン氏は「通常のドライバー
開発では10回前後の改良
で新モデルが誕生する
が、AIが設計したフラッ
シュフェースは約1万5000
回の改良によってフェース
のデザインが完成した」と
語る。今回のAIによる開発
は、通常だと34年の開発
期間にあたるものとも言
われている。

伸ばせる発見。 最ル ール適合でも 大飛距離を

ました。おそらく、2本の柱がないヘ
ッドでフェースセンターを薄くするとル
ール制限を超えます。しかし、2本の
柱で余計な挙動を抑える効果によっ
て、ルール適合でありながら、ゴルフ
アが打ったときのボールスピードを上
げられることがわかったのです」

SLEERによって、近年のドラ
イバー業界は最大飛距離を求める『高
反発』ではなく、反発エリアを広げ
る『広反発』の時代になった。しかし、
アラン氏は、

「近年のオフセンターヒット時の初速
の向上ではなく、今回はフラッシュ
フェースによってセンターヒットの最高
スピード、最大飛距離を求める開発
ができました。すでに、契約プロでボ
ールスピードが5 m / s 以上も上った
選手もいます」

フェースをデザインしたのはAIだ



歴代のXフェースとは
“明らかに違う”構造。

Xフェースに代表されるように、歴代のキャロウェイの
ドライバーは、フェース中央部分が最も厚くなって
いて、周辺部を薄くすることで、より広い反発エリアを
実現していた。今回のフラッシュフェースはフェース
センターが薄いだけでなく、左右非対称になっている
独特な人間の発想を超えた形状をしている。

が、そこにはジェイルブレイクテクノ
ロジーをはじめとするキャロウェイの
技術が最大限に生かされている。AI
とフェースの融合ではなく、AIとキ
ャロウェイの融合によって、ふたたび
最大飛距離を求める時代の幕開けと
なるドライバーが誕生したのだ。

世界的大ヒットを記録した『GBB エピック』の
2代目がついに今年2月に発売。
前作では2本の柱(ジェイルブレイクテクノロジー)を
ヘッド内部につけた画期的なテクノロジーが
話題になったが、今回はAI生まれのフェースで
新時代の飛距離革命を起こそうとしている。



Callaway x AI
EPIC FLASH

開発秘話

「フェース中央を
薄くするデザインは
“逆転の発想”だった」



キャロウェイゴルフ・カンパニー
R&D担当 上席副社長
アラン・ホックネル
Callaway Golf Company
Senior Vice President, R&D
Alan Hocknell



「それはサブライズなフェースでした」
初めてAIがデザインしたフラッシュ
フェースを見たとき、開発部門のリー
ダーを務める上席副社長のアラン・ホ
ックネルはそう感じたそう。

「まず、フェースセンターが薄くて、
外周部分に極端に厚い部分がありま
した。今までキャロウェイが開発して
きたXフェースや他社のドライバーでは
フェースセンターを厚くするのがセオリ
ーです。もちろんフェースセンターを
薄くしたほうが初速は上がりますが、
耐久性の問題や、ルール制限を超えて
しまう問題があったのです」

では、どうやって、AIは耐久性と
ルール制限の問題をクリアしたのか?
「今回、AIに与えた指令は『ボー
ル初速を上げる』『ルール適合』になる

ということでした。そこにフェース重量の
制限をつけていません。これまで、キ
ャロウェイではフェースを軽くするこ
とで、ヘッド全体のフリーウェイトを得て、
ヘッド後方にウェイトを配置してやさし
さを求めてきました。でも、今回はル
ール適合の中のボール初速アップを追
求したことで、歴代のドライバーと比
べてもフェースは重いです。しかし、フ
ェースを重くしてもソールやクラウンか
らウェイトを削って最適重心にする技
術を開発チームは持っていました」

ルール制限については、6年間をか
けて開発したジェイルブレイクテクノ
ロジーの時に新しい発見があったそうだ。
「ジェイルブレイクの開発段階で、実
はベンデラム測定によるルール測定
時と、実際にゴルフアが打ったとき
のフェースの挙動が違うことがわかり